

2021年度の教育活動等に対する学校評価書

教育方針

心を高める

本年度の重点目標

①生きる力の基礎を育む教育活動の取り組みに力を注ぐ

- ・一日一日を大切に、感動する保育を心がける
- ・子どもたちが、目を輝かせて遊び、自己発揮出来る環境構成や援助を充実させる
- ・自分で考えて行動し、出来ることだけでなく失敗もたくさん経験させ、その中から学ぶ意欲のある子に育てる

②指導力向上、教育の質的向上の教育活動の取り組みに力を注ぐ

- ・年間での保育研修等の園内研修計画を整え、研究保育を実施する

③体験する中で興味・関心・意欲等様々な体験活動の取り組みに力を注ぐ

- ・製作活動や表現活動・栽培活動・食育・運動遊びなど直接的体験を重視した遊びや生活を展開する

3. 自己評価とそれに対する学校関係者評価結果

A 十分に評価があった B 成果があった C 少し成果がなかった D 成果がなかった

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価対象	評価項目	自己評価		学校関係者評価委員会	
		評価点	幼稚園としての反省と改善点	評価点	意見
保育の計画性	子どもの実態を的確につかみ、具体的な手立てをこうしている	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教師も子どももわくわく感を感じ、感動できる保育を心掛けてきた ・経験を通してやってみたい、やってみようという気持ちにするように心がけた ・他人の気持ちを考えたり、いろいろな立場を考えることが出来る子に育ててきた ・日本文教幼稚園のフィロソフィーを職員間で読み合わせてきた 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「心を高める」教育方針 大変素晴らしい。大切な目標だと思います ・「心が高まった子ども」とは、どのような姿なのか具体的に描く必要があります ・成長段階に応じて設定し、あくまでも基本的な姿として捉えたいです。なぜなら、子ども達の成長はこれからグングン伸びる ・指導者として子どもの姿を「この子はこういう子」と決めつけてはいけなく、成長を妨げてはいけなく常に留意したいです ・体験を通じて子ども達を育てている教育効果は、確実に実を結んでいると感じます ・今後も親子で楽しむ企画を設けて欲しいです 例えばピアノ演奏・クラシック等 ・友達や周りの人達に喜んでもらいたいという他者を思いやる心が育っていると感じています 園の先生たちの教育が子ども達の素晴らしい心を育てていることを実感しています
	園の教育理念、教育方針に従って目標を設定している	A	<ul style="list-style-type: none"> ・園の教育理念、教育方針を見直し職員一人ひとりが理解できるように職員会議で話し合いを持つ機会を設けた ・目標に向けた計画をしっかり作成し、子ども達に負担にならないように配慮した ・報告・連絡・相談をこまめに行った 		
	幼稚園は子どもの良さを認めて、評価しようとしている	A	<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念を意識し子ども達に接することが出来た 良いところをたくさん褒めることを意識した ・子どもの表面的な姿だけでなくなぜその姿が見られるかという気持ちの面まで捉えるように心がけた 子どもの話を良く聞いた 		

保育のあり方	幼稚園は子どもの健康に留意し、適切な処置を行なっている	B	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中での毎日の検温・手洗いがい・換気・マスクの着用・消毒・黙食に努めた ・かすり傷の場合、ティッシュでなく綿花で洗浄した ・子どもの異変にはすぐ気づけるようにした ・検温チェックの見落としがあり反省 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・先生方が、子ども達にわかりやすく的確な指示を出している ・保育の事前の準備がしっかりとされている ・担任との信頼関係がしっかりとできている ・一人ひとりの保護者の方・子ども達に行き届いた配慮をして下さり、安心安全な教育環境を提供している ・様々な体験活動をしてきている ・毎月の防災訓練は、子ども達に意識させる意味でも教育としても良いと思う ・挨拶がしっかりとできるようになった ・みんなが全員の園児の顔・名前が一致していて、アットフォームなところが良い ・名前で呼んでもらえると嬉しい ・席を立つときは、きちんと椅子をしまおう等出来ていて安全への配慮・指導が出来ていた ・保育者が一人ひとりに合った援助や言葉がけをしていた ・玄関の先生からのメッセージボードは、今日の活力になります ・先生と子どもが思いっきり楽しんでいる姿は素敵です ・子ども達に指示をするばかりでなく考えさせる保育をしていた ・子ども達が、自分の意見を言うことが出来お話しもしっかり聞けていた ・保育者が子どもの意見にしっかりと耳を傾け余裕を持って保育をしていた ・ロケット本体と同じ色にならないように保育者が配慮していた
	安全についての意識を全職員がもち、安全教育に努める	B	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間での話し合いが大切で、危険な場面、危険な箇所についてはみんなで共通理解をし、改善した ・コロナ感染防止に伴い、ドアノブ・机・玩具椅子など常に消毒に心掛けた バス内消毒・乗車時・給食時にも行った 		
	保護者との連絡を密にし、発達や課題に前向きに対処している	A	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日のブログの更新・連絡帳でのやり取りや面談等、子ども達の様子を発信したり、保護者との連絡を密にしていた 		
	幼稚園は、他のクラスや異年齢交流等の様々な保育形態で子どもを共通理解している	A	<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢グループ3人組を作り、活動した ・昨年の反省で赤組さんの負担が少し多くなってしまう部分があったため、今年度は、一緒に楽しめるものを計画した ・コロナ禍の為に給食を一緒に食べる回数が少なかった 		
	子ども達が今興味関心をもっていることを知る	B	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達の興味・関心を受け止め、驚きと感動の気持ちが持てるようにした ・マナー化しないように新しい事にもチャレンジするようにしてきた ・子ども達のやりたいという気持ちを大切にしてきた できるだけ自分の力でやり通し、自信をつけさせていきたい ・毎日のカリキュラムは決まっているが、予定を変更して子ども達の気持ちに沿って活動した 		
教師として	教職員は園内の美化に努めている	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教材庫等職員全員で片付けても しばらくたつと、またもとに戻ってしまう ・一人ひとりの先生が気を付けていかなければいけないと思う 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・職員室の木のぬくもりが、職員の団結・仲の良さにも表れています ・職員間で良く話し合いをしていることが良い ・もっと日頃は、超忙しいでしょうから形式的な話し合いより、雑談をいっぱいして情報交換互いの理解を深めていきたい ・「チャレンジすること・まずはやってみる」先生方の成長、温かい雰囲気が子ども達の
	幼稚園の研修や研究に積極的である	B	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中で、研修会もほとんどZoomで行った 移動時間も短縮でき落ち着いて研修会に参加することが出来た 研修報告 		

の資質能力、適正等		<p>もすぐに行うことが出来た</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公開保育を行ったことで違う視点での意見をもらい勉強になった 色々な目で見てもらうことで良い刺激となった ・スキルアップ研修は気づきや学びがあり勉強になった ・SDGSにも取り組み職員同士子ども達と一緒に考え、クラスで目標を決め取り組んでいった 	<p>成長への一番の薬です</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育の導入の仕方等能力があると感じます ・積極的に研修に参加していた ・お迎えに見えた時など保護者とのちょっとした声掛けがあると有難い ・他の先生に負けないことを1つ見つけて「〇〇は私が一番」な先生になって欲しい ・専門的なこと以外にも文化的・芸術的なものを直接観たり、聞いたりして子ども達に伝達して欲しい
保護者への対応	保護者と保育者が家庭でのあり方と保育についての共通理解が出来るよう努める	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳や面談を通して共通理解を図った希望があれば、面談期間中でなくても随時行った ・定期的に園だより・クラスだよりを発行し保護者と共通理解が得られた 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者は、園全体の取り組みはもとより我が子の様子を一番知りたいものです SNS等を使ってこまめに褒める・認める言葉を発信して欲しい ・ここ2年文教祭り等、コロナで親同士の活動がなくなり、園に関わる機会が少なくなっている人がいるかと思う ・毎月の全園児への手作りのプレゼントが嬉しい
地域との連携	地域への開放や子育て支援事業を具体的な形でやっている	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中で未就園児教室は、2回に分けて行った ・行う内容がマンネリ化しないように配慮していきたい 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で地域・小学校・幼稚園同士の交流が出来なかったのは残念でした ・すくすく広場では、人数制限をして行い皆さんに平等になるように新たに日を設けてくださった 工夫をしながらできる限りの事を行ってくれてありがたい
	幼少連携・地域との連携活動の充実を図る	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の影響で小学校交流・他園との交流が出来なかったのは残念だった 	

4. 総合的な自己評価(結果)

結果	理由
B	<p>・教育目標について もう一度職員で話し合いを持ち、どのような気持ちで保育に望んでいったらよいのか原点に戻って職員と共通理解を持って行った また、公開保育を行うことで保育を見直す機会としていった 昨年度の反省をもとに今年度、取り組むべき課題について全職員で話し合いを持ち実践していった</p> <p>①健康に留意した適切な処理</p> <ul style="list-style-type: none"> 子ども達の異変にはすぐに気づけるように気をつけていたが、急に熱が上がったり、嘔吐してしまう子もあった その際すぐにお迎えをお願いしたが、連絡がつかずに困ったことがあった 連絡先については変更した場合の把握 職場等の連絡先の把握をしっかりする必要があった 保護者の方に毎日の検温して頂いたが、全員の確認が出来ていなかった コロナ禍の為に黙食をし、食事のマナーが良くなった <p>②意欲をもって考える力を育む保育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 保育の仕方を考えたり、ほんの少しの成長でも喜び会うことが意欲につながったと感じる 活動中、子ども達が自分で考えて活動を行っていきけるよう意識したが、声のかけ方や保育の展開などは、あまり満足いくようにはできなかった これからも自主性を大切に子ども達の考えを引き出していきたい <p>③感動できる文教農園の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 文教農園の活動は、コロナ禍ということと、天候の関係でいけない日もあった為できるだけ多めに予定を組んでおいた方が良かったと感じる 収穫時期等多少変更はあるものの計画をしっかりと立てていく必要があった 時間的に余裕がないために弁当持ちにしても良いと思う 泥んこ遊び等十分にできると思う 農園だけでなく日々の変化を観察できる作物を園庭で育てることもしていきたい 野菜の栽培をすることで、好き嫌いをなくすことが出来ている <p>④多くの体験を通し、気づいたりする保育の充実ができたか</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々な経験をして何かに感じられる保育を意識していきたい 保育のマンネリ化も少なくしていきたい コロナ禍の中でカットした活動もあったけれど来年度は、時期的なこと・内容も考えていきたい <p>⑤異年齢保育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 昨年は、お店屋さんごっこで小さい子達の負担になる部分があったため今年度は、一緒に楽しめるものをたくさん計画し、関わりを増やしていった <p>⑥挨拶ができる子</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣で最も大切なことで、自分たちから自然と出てくるようにしたいが、まだできていない子も多い 周りの大人がしっかり見本を示していきたい <p>⑦子どもの健康留意・体力向上を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> 必ず毎日外で遊ぶ時間を作り、体力作りに努めた 出来ないから諦めるのではなく挑戦する心を育て運動が苦手な子も集団遊びを通して外遊びが出来た 運動も偏りが出ないように静と動の活動を工夫していった <p>⑧非常階段の老朽化の為、非常階段の設置をしていく</p>

5. 今後取り組むべき課題

①環境整備

子ども達が遊びたくなるような園庭

②文教農園

普段の保育での農園活動の充実 マンネリ化しないよう新しい作物を植える

休日の日の農園の使い方を考えていく

③異年齢保育の充実

④子どもの健康留意・体力の向上を図る

⑤行事に力が入り、普段の保育がおざなりになってはいけないため、行事の為の行事にならないように努めていく